

■令和二年九月七日

観音堂 観世音菩薩像 開眼式

かねてより建築中の観音堂に観世音菩薩像をお迎えし、九月七日午後二時より博志住職導師のもと開眼式を執り行いました。

敷地全体の外構工事はまだ完成をしていませんが、善光寺への入口となる大階段が建設されるなど、景観が大きく変わる中で行われた開眼式には、檀信徒を代表して総代の方々にご参列、ご焼香頂きました。

法要後、観音堂建設委員長の山口義男護持会会長より、コロナ禍の中でも無事に開眼式を迎えられた喜びをお話し頂きました。

続いて、地元を代表して日野石材工業協同組合理事長臼井瑞穂様より「目の前で工事が進む

のを見て完成をととても楽しみにしていました。このような素晴らしい観音様をお迎えされて地元としてもとても嬉しく思います。」とご祝辞を頂きました。

また、建設を請負った佐藤薫工務店社長佐藤和彦総代からは土地の購入から観音堂建設に至る経緯の説明を頂き、さらに打ち合わせを重ね、住職の意を汲み、寺の顔として誇れる観音堂を建築すべく工夫した点等のお話を頂きました。

最後に博志住職は、

「観音堂建築は先代住職の誓願でありました。梅嘉庵を建てる時にも観音堂の計画がありました。が、機熟さず叶いませんでした。

今回多くの皆さまのご尽力により観音堂が建ち、観音様をお迎えする事が出来ました。これも檀信徒の皆さま方、地元の皆さま方、ご縁を賜った多くの方々のおかげであります。衷心より篤く感謝申し上げます。

今のようなコロナ禍の中においてお迎えすることが出来たこの観世音菩薩様は必ずや、たくさんの人々をお救い下さる仏さまであると、今お参りをしていて確信致しました。お参りされる皆さまを救い導いてくれるだけでなく、世界中の人々に安心を届けられる仏さまだと確信しております」

と力強い言葉でご祝辞を述べられました。

この『成寿』がお手元に届く頃にはお参り頂けることと存じます。どうぞお参り頂き、ご縁を結ばれますようお願い申し上げます。

(中グラフに続く)





■ 観音堂

観音堂は釈迦殿と統一感のある銅葺き屋根の外観。内装も釈迦殿と同様の格天井造り。シヤンデリアで照らされる観音像の背面にはやはり釈迦殿と同じく、輓仏せんぶつ（瓦焼きの仏様のレリーフ）が施されております。

建物に入らなくても正面からお参りできるように吹き抜けのホールに高さ三メートルを超える観音様をご安置しております。



輓 仏



額は清水寺 貫主 森清範大僧正による揮毫



聖僧様の左右の簾は本寺光真寺
黒田泰弘老師による揮毫



